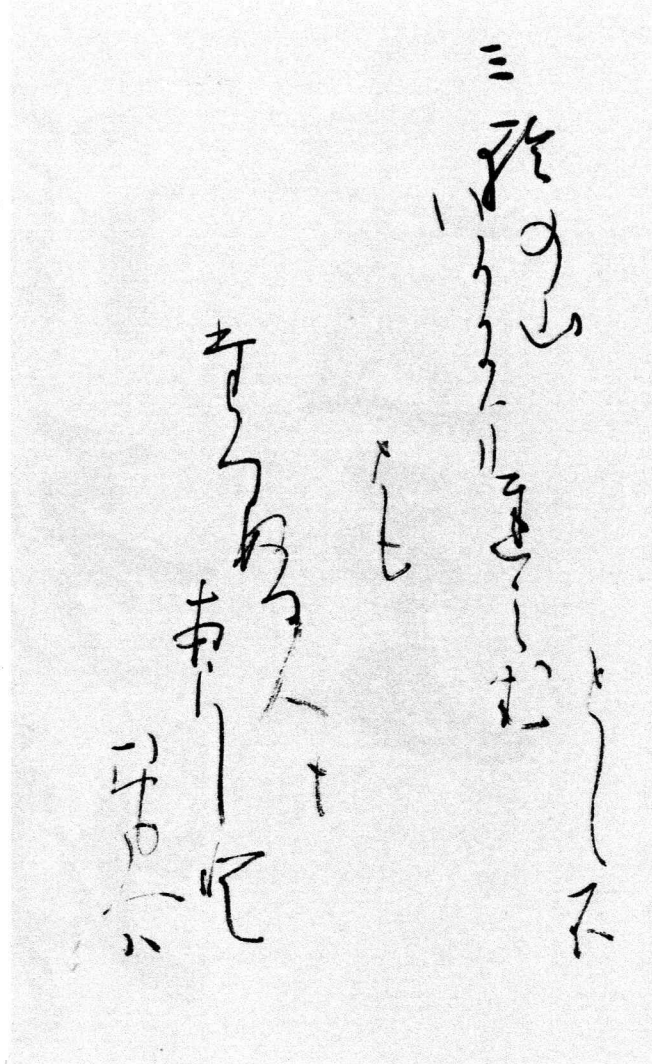


中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (八)
— 三十六歌仙 —

三輪の山 いか待ち見む 年経とも たづぬる人も あらじと思えば。

伊勢

(伊勢) 生没年未詳。伊勢は藤原継蔭つぐかげの女むすめ、父が伊勢守であったことによつてこの名がある。『古今和歌集』では小野小町に次ぐ女流歌人。人の世のわびしさを詠んだ歌が多い。



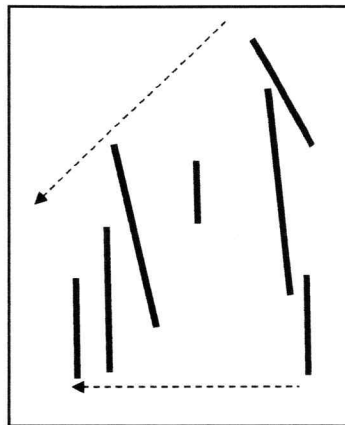
中村素堂先生の書

中谷春径先生提供

〈歌意〉

「三輪の神よ、わが故郷の山よ、そこにどのようにあの方をお待ちしたらよいのでしょうか。たぶん、年経てもなお、訪うて来る人もないと思ひますのに。」
この歌は、『古今和歌集卷一五、恋歌五』に出ています。

〈線の構成〉



〈字母〉

三輪の山

い可かに万ま遅ち三みむ とし 不ふ

堂たつつぬる人も

あら しし人も

おもへハ登

しだれ柳が風に吹かれて右になびく風景に見えます。

非常に高度の技術を要する素堂先生ならではのテクニクが見てとれます。一行の散らし書きが冴えわたった一品です。

(中村青藍)